

まつもと かずあき
松本 和明経営学部 教授
修士(経営学)／明治大学ホームページ URL
なし

主な研究業績

- 渋沢研究会編「はじめての渋沢栄一―探求の道しるべ」ミネルヴァ書房、2020年（「期待が寄せられる学問・研究領域」を執筆）
- 江藤茂博編「講座近代日本と漢学第8巻 漢学と東アジア」戎光祥出版、2020年（「経営学と論語―土屋喬雄の事績」を執筆）
- 「1930年代から40年代初頭における北越製紙の経営発展と企業成長」明治大学経営学研究所『経営論集』第67巻第4号、2020年3月
- 「歴史にみる地域資源の利活用と新産業・ビジネスの創出～新潟県の場合～」一般財団法人北海道東北地域経済総合研究所発行「はくとう総研情報誌 NETT」No.104、2019年
- 安部悦生編著「グローバル企業―国際化・グローバル化の歴史的展望―」文真堂、2017年（「岩塚製菓と旺旺集団―地域企業のグローバル化の一考察―」を執筆）
- 加賀製紙株式会社編集・発行「加賀製紙百年」2016年（監修および共著）
- 「競争力の源泉は産学官連携～新潟県の米菓工業の場合～」『はくとう総研情報誌 NETT』No.92、2016年
- 一般社団法人地域ルネッサンス創造機構シンクタンク・ザ・リバーバンク編「消滅してたまるか！―品格ある革新的持続へ―」文藝春秋、2015年（編集委員長・共著）
- 「渋沢栄一と外山脩造」渋沢研究会編『渋沢研究』第25号、2013年1月
- 長岡商工会議所発行「長岡商人 百年の軌跡」2011年（共著）
- 長岡市編集・発行「郷土長岡を創った人々」2009年（共著）
- 長岡砂利採取販売協同組合発行「長岡砂利採取販売協同組合創立四十年史」2007年（編集主幹・単著）
- 北越製紙株式会社北越製紙百年史編集委員会編「北越製紙百年史」北越製紙株式会社、2007年（共著）

研究テーマ Research theme

産業・企業および地域の成長と
存続に関する研究

概要 Overview

1. 会社史・団体史の調査・執筆

「温故知新」（『論語』）や「賢者は歴史に学び、愚者は経験に振り回される」（オットー・フォン・ビスマルク）との言を俟つまでもなく、組織であれ個人であれ、折にふれて自らの歩みをふりかえることは重要です。とりわけ、企業や団体は、創設者の高い志に基づいて立ち上げられ、様々な創意工夫とチャレンジを重ねるとともに幾多の問題を克服して、事業の成長と存続を実現し現在に至っており、時機におうじて（創立〇〇周年など）そのプロセスを跡付けることは、将来への方向性を確立する一助となるとともに、社会・地域における存在意義の再確認と共有にも寄与します。埋もれている史実を発掘して客観的に叙述し、内外に読み継がれる会社史・団体史ないし記念誌の調査・執筆のお手伝いをします。

2. 渋沢栄一の活動と理念

渋沢栄一（1840～1931）は、「日本資本主義の父」と称されるように、約500社の設立と経営に携わり、近代ビジネスの定着やインフラの整備に多大なる貢献をしました。これとともに、社会貢献活動（フィランソピー）にも力を尽くし、教育・国際交流・福祉など約600の団体に関係しました。渋沢は京都をはじめ関西との関わりも深く、現在の東洋紡・京阪電気鉄道・京都ホテルなどの創設に関与しました。2021年のNHK大河ドラマの主人公、2024年に発行予定の新一万円札の肖像など話題になりつつありますが、渋沢の公益を重視する企業者活動や各地の活性化への注力、「論語と算盤」・「道徳経済合一」といった理念は学ぶべきところ大です。

3. 地域ビジネス・地域金融

2019年3月まで在籍した長岡大学で受けもったゼミナールでは、新潟県十日町市が主催する「十日町市ビジネスコンテスト」に参加していました。十日町市は日本を代表する豪雪地帯ですが、着物をはじめ様々な産品があります。同コンテストは地域産品の新たなビジネス化を目的として掲げており、学生のプランが商品化を果たしたケースもあります。地域資源の有効活用は地方創生の要諦であり、学生とともに取り組んでいく所存です。

2018年10月より新潟県の地方銀行の金融持株会社である株式会社第四北越フィナンシャルグループの社外取締役（監査等委員）を務め、地域金融に関する知見を重ねています。地域間での情報交換や共有に向けて一翼を担いたいと考えています。

応用分野 Application areas

これまで、新潟県、新潟市、長岡市、長岡商工会議所、小千谷商工会議所、三条商工会議所、柏崎商工会議所、株式会社北越銀行、北越コーポレーション株式会社、岩塚製菓株式会社、長岡信用金庫、塩沢信用組合、一般社団法人新潟県経営者協会、長岡青年会議所、長岡市栃尾地域NPO連絡協議会、および公益財団法人渋沢栄一記念財団、東京商工会議所、東京都港区、埼玉県深谷市などからの依頼に応じ、各地域の産業史・経営史・企業家史や渋沢栄一などをテーマとする講演・シンポジウムを実施してきました。

共同研究等へのニーズ Need for joint research

これまでの活動は、主に新潟県をフィールドとして、行政、企業、団体と連携しておこなってきました。その成果を京都をはじめとする他の地域へも展開していきたいと考えています。他方、新たなフィールドでの成果を新潟へもたらすことも視野に入れています（新潟県域からは期待の声が寄せられています）。特に関西と新潟県とは関係が薄いとされがちですが、これを払拭し、地域間交流の深化に寄与したいと切望しています。